

別名端谷Ⅰ遺跡 2次調査成果速報会

—文字が書かれた木の札を中心に—

公益財団法人愛媛県埋蔵文化財センター

遺跡名称：別名端谷Ⅰ遺跡 2次

調査場所：今治市別名

工事主体者：国土交通省四国地方整備局、今治市

調査主体：(公財)愛媛県埋蔵文化財センター

調査期間：令和4年4月1日～令和5年3月24日(予定)

調査面積：延べ7,675㎡(予定)

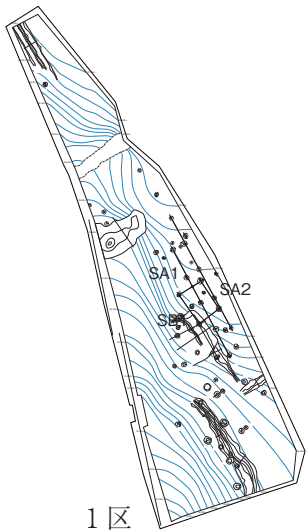
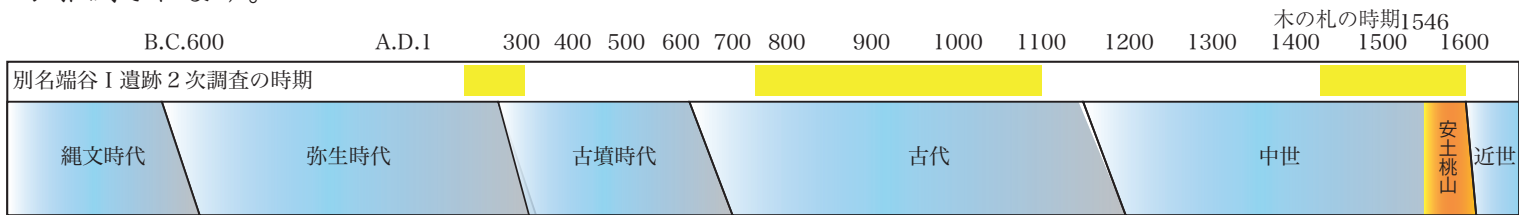
-概要-

別名地区は、古くは大三島に所在する大山祇神社の宮司職であった大祝氏の所領であり、大祝屋敷の存在が伝承として残っています。別名端谷Ⅰ遺跡は今治新都市開発に伴い、第1次の発掘調査が当センターによって実施され、古代(8～10世紀ごろ)の鍛冶炉や『倉正私印』と刻まれた銅印などが出土しています。

今回は一般国道196号今治道路・今治市道別名矢田線の整備に伴い、令和4年4月から調査を開始し、弥生時代後期(1～3世紀)、古代(8～10世紀)、中世後半(15～16世紀段階)の集落遺跡を確認しました。

中世後半の本遺跡の最大の特徴は、丘陵斜面に平坦面を造成し、集落を営んでいることです。2区では、掘立柱建物と柵列、溝、土坑、自然流路などが検出されました。掘立柱建物は現段階で3棟確認でき、今後の分析により、さらに複数棟確認できる可能性があります。そのうち、4号掘立柱建物(SB4)と5号掘立柱建物(SB5)は規模の大きい総柱建物であり、これらは重複しています。その規模は両者ともに4間×3間(桁行×梁行)であり、柱間の距離は約2.0mです。これらの建物・柵列以外にも建物等を構成する可能性が高い小穴が複数確認できるため、少なくとも2時期以上に渡って集落が形成されていたことが推測されます。また、自然流路(SR2)には、日常容器が多数廃棄されるとともに、鍛冶活動の跡とみられる鉄滓も多く出土しています。浅い掘り込み状の遺構(SX3)では、天目茶碗と銅製品(蓋か?)が出土しました。いずれも一般集落ではあまり出土しないものであり、天目茶碗の出土は、茶の湯を嗜む階層が存在していたことを示唆しています。また、3区、5区、6区にかけて広がる自然流路(SR3)も確認しました。この流路からは、天目茶碗や中国陶磁器である青花(染付)、漆器碗とともに、文字が書かれた木の札が出土しました。この札には「大般若経六百巻」という文字とともに「天文拾五」(西暦1546年)という年号が墨書されていました。

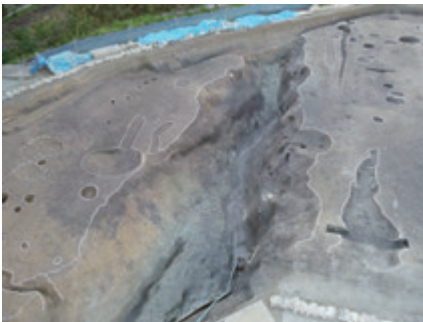
このような遺構や出土遺物の特徴から、別名端谷Ⅰ遺跡2次調査地には、有力者が居住していたことが推測されます。



1区



5区 SR3 完掘削状況



3区 SR3 完掘削状況



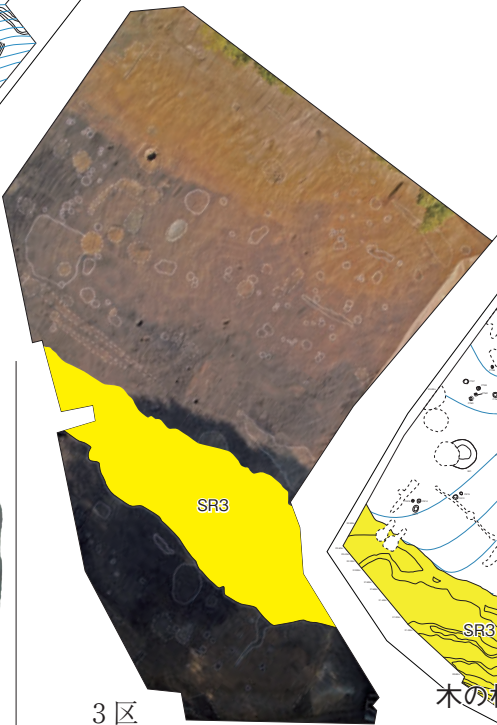
3区 SR3 青花(染付)出土状況



5区 SR3 出土木の札



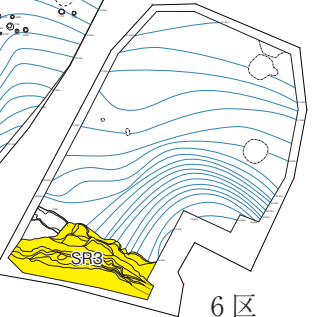
2区



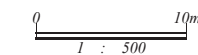
3区



4区



5区



別名端谷Ⅰ遺跡2次1面目全測図

- SB4に伴う遺構群
- SB5に伴う遺構群
- その他の遺構群

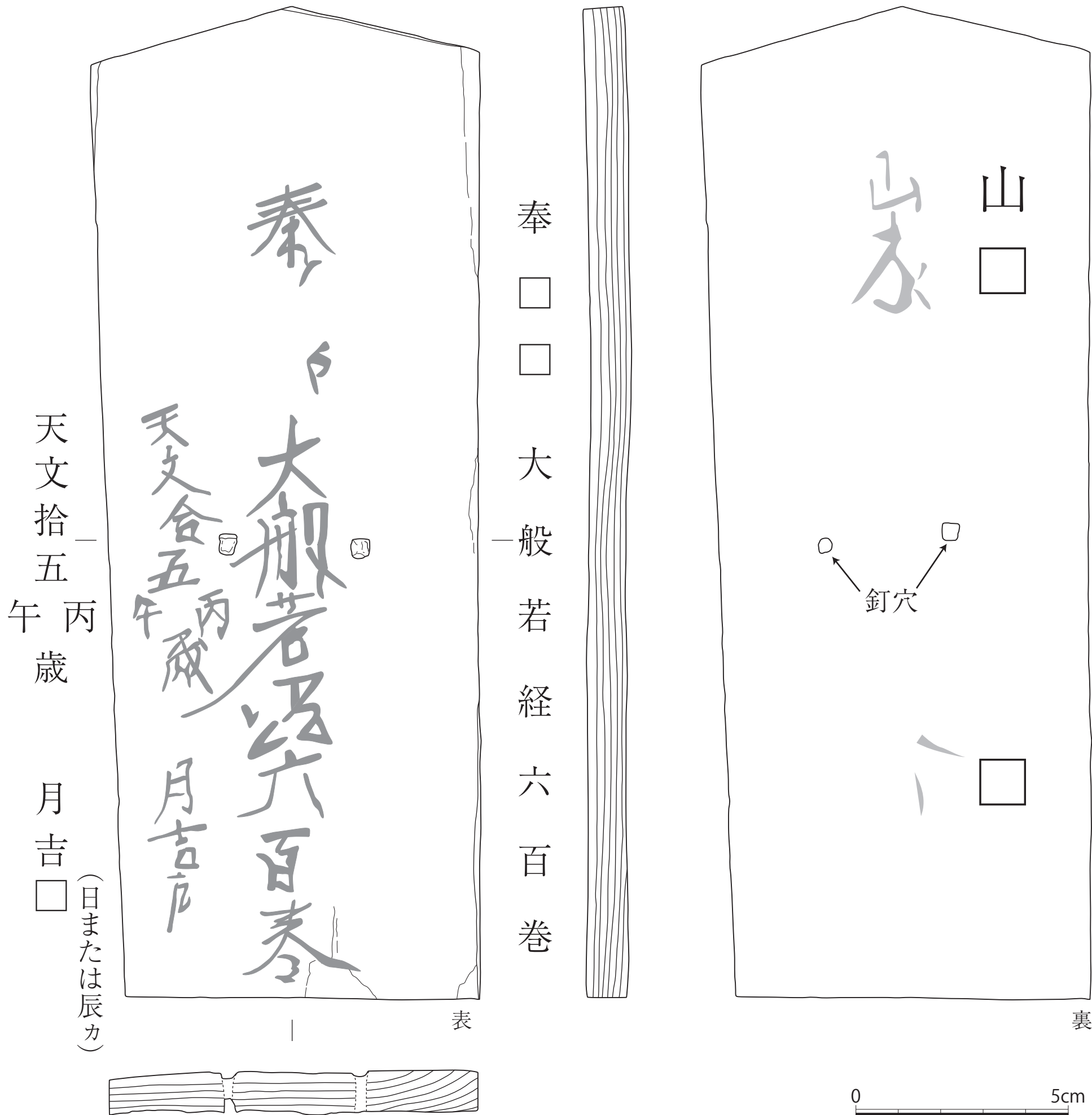
遺跡略記号

SA：柵列 SB：掘立柱建物 SD：溝 SK：土坑
SR：自然流路 SP：小穴 SX：性格不明遺構



5区 SR3 出土漆器碗

5 区 SR3 出土木の札の概要



出土場所

5 区 SR3(自然流路 3)

大きさ

高さ 23.3cm

幅 (上端)9.2cm、(下端)8.3cm

厚み 0.9cm

ほう□□だいはんにやきょうろっぴやくかん てんぶんじゅうごひのえうまいげつきちじつ(きっしん)
表には『奉□□大般若経六百卷 天文拾五丙午歳月吉□(日または辰カ)』と書かれているものと考えられます。裏面は判読が困難ですが、寄進者名が書かれていると推測されます。天文 15 年は西暦 1546 年で、1546 年は丙午の年にあたります。札の中央には、釘穴が 2 箇所確認でき、何かに打ち付けられていたことが推測されます。書かれている内容や木の札の大きさから、^{きょうびつ}経櫃(経文を納めておく容器)などの外面に打ち付けられた木の札の可能性が考えられます。

愛媛県内で残っている中世の木札はよく知られているもので5例あり、いずれも棟札(建築物の創建、建立または修理に際して、その事実を木札などに記して棟や梁に打ち付けた記録のこと)です。別名端谷Ⅰ遺跡2次調査で出土した木の札が経櫃の札であるとすれば、県内で初めての発見例になるかもしれません。

表 愛媛県内の中世の木札

名称	所在地	年号	西暦	全長(cm)	上幅(cm)	下幅(cm)	厚み(cm)
白山神社の棟札	宇和島市津島町	長禄二年	1458年	101	12	11	1
八幡神社の棟札	宇和島市津島町	天文十三年	1544年	124	4	9.5	1.5~2.0
八幡神社の棟札	宇和島市津島町	天正十年	1582年	136	22.5	22.5	2.2
石手寺十二所権現社 上葺の棟札	松山市	嘉吉~寛正	1443等	64	13	12.5	1.3
大浜八幡神社の棟札	今治市	大永4年	1524年				
別名端谷Ⅰ遺跡2次調査出土の経櫃札	今治市	天文十五年	1546年	23.3	9.2	8.3	0.9

謝辞 木の札に書かれていた文字の翻刻では、山内譲先生(伊予史談会会長)と川岡勉先生(愛媛大学教育学部教授)に指導を受けました。感謝を申し上げます。